

特集① 香川の工芸品を訪ねて

デザインを旅する

特集② 新春座談会

日本の元気 香川から



DESIGN

さぬき瀬戸
島物語



芸術家を招く 粟島



三豊市詫間町の須田港から船で15分、周囲16・5kmの「粟島」がある。空から見れば、スクリーンの形に見えるというこの島に、日本初の海員学校が設立された。現在、その建物は粟島海洋記念館として、海にもんだ展示物が並ぶ。

この島で、2010年9月から始まったのが「粟島アーティスト・イン・レジデンス（粟島AIR）」。島に若手芸術家を招き、その創作活動を支援しようというものだ。第一弾として、染色、絵画、彫刻を手掛ける3人の芸術家たちがやってきた。島では芸術家村運営委員会を立ち上げ、さまざまな形でバックアップしている。こうした島の人々と感性豊かな若者たちの交流により、粟島の魅力がまた新たに発信される。





特別名勝 栗林公園 輪月亭

「香川」 という宝

「瀬戸内国際芸術祭2010」は、90万人を超えるご来場をいただき成功裏に幕を閉じることができました。アート県として、世界の皆さまにあらためてご認識いただいた香川県は、さまざまな美の宝庫であります。世界の宝石とたたえられる瀬戸内海。海に守られ、魅惑の風景が残る島々。おとぎ話のような小山が並ぶ讃岐平野。言い換えれば、日本の良さをぎゅっと凝縮した県です。

こうした風土に生まれた香川には、おいしいものがあふれています。魚介類の種類が豊富な海。一年中実りが約束された大地。果物も野菜も、

取れない物はないというくらい多様な収穫があります。

アートのみならず観光・産業・環境など、世界に向けて、香川県の魅力を発信し続け、人とモノの交流を積極的に図ってまいりたいと考えております。そのためには、新しいことにもどんどんチャレンジし、香川の「元氣」を国内外に知っていたくことが大切です。

多くの皆さまに、この誌面を通じて、香川の宝をご紹介します。やがては香川のモノに触れ、この地にお越しいただきたいと願っております。芸術祭の現代アートに続き、今号では讃岐の風土に根付いた伝統の美にも触れていただきたいと、デザインという新たな切り口で香川の旅をご提案いたしました。香川の良さを多方面から発信したいと、各方面で活躍されている方々と共に語った新春座談会も掲載しました。

全国の皆さまへの熱いメッセージとします。

香川県知事
浜田 恵造



玉藻公園
かつて技を愛した建物のお城が
あった史跡高松城跡「玉藻公園」。



象谷塗
創始者-象谷の名前が
付けられた技法。
民芸的な味わいは、
時を超えて愛されている。

香川の技を語るときに忘れてならないのは「香川漆器」である。200年近い歴史を誇る香川の漆器は、はし置きやブローチなどの小品から家具まで、その種類の多さは日本一といわれている。徳川御三家につながる親藩として、豊かな文化を育てた高松藩。その御城下には、鍛冶屋町、磨屋町、紺屋町と、職人にちなむ町名が今も残る。その磨屋町で生まれたのが玉積象谷。香川漆器の始祖である。江戸末期に生まれた象谷は、中田伝来の存清やタイの菊池といった技法を習得し、さらに創意工夫を加え独自の漆芸技法を生み出した。象谷の技を引き継ぎ、数々の名工が生まれた香川県。今もその技は、暮らしを彩り、世界を魅了する。

城下町の「漆」



その技を支えてきたのが「香川県漆芸研究所」。人間国宝をはじめとする指導者のもと、研究生・研究員が漆芸の新たな世界を開くデザインを磨く。
香川県漆芸研究所
電話087-831-1814

技が生むデザイン



後藤塗
朱塗を乾かすうちに
指先で塗っていく。
磨かれた気候から生まれた
朱の色は独特のものである。

ミニ重箱(後藤塗)
伝統の重箱も
楽しく使えば、
暮らしの美が広がる。



飾り盆(存清)
色漆で模様を描き、
時には金泥を施す技法。
華やかさに息をのむ。



特集① 香川の工芸品を訪ねて

デザインを旅する

瀬戸内国際芸術祭が開催され、アートの県として注目される「香川県」。現代アートが彩るここには、歴史の美ももりばめられている。その美的感性が磨かれてきた背景には、長年培った伝統工芸や民芸の世界があった。素材から美が生まれ、暮らしの中に磨かれてきた美。年月を経てもそのデザインは斬新ささえ感じる。讃岐の風土が生んだ工芸品を訪ねる旅は、デザイン観光となる。デザインを旅する楽しさを味わっていただきたい。

高松嫁入人形
大正時代までは、婚礼の
豊饗に配られた嫁入り人形。
昔は土人形であった。



「おもちゃ買うなら高松へおい
でかわいいデコさん手で招く」と
俗謡にうたわれるほど、高松はデ
コ(人形)作りが盛んであった。殿
治屋町には数件の人形屋があり、
「高松嫁入人形」が売られていた。
これは、婚礼の際に近所の子ども
たちに配る人形。
「奉公さん」と呼ばれる人形が有
名な「高松張子」は、粘土で型を作り、
その上に和紙とのりを交互に重ね
て貼り付け、自然乾燥させる。その
後、抜き型から外し、地塗り乾燥
を繰り返す。最後に彩色をすると
いう根気のいる手仕事。子どもた
ちの幸せを願って作られてきた。



高松藩時代の紺屋町は、染物屋が
軒を並べていた。そこでは、暮らし
に欠かせない野良着や着物、布団地
が染められていたという。その歴史
を継ぐのが「讃岐のり染」のれんや

もち米で描いた模様

竹の骨に和紙を貼って形が出来
上っていく「提灯」。折る心で作ら
れたのは「讃岐提灯」。四国八十八
カ所の奉納提灯として始まり、そ
の技法は「讃岐一本掛け」と呼ばれ
る香川県独特のもの。特に三重構
造の提灯作りの技は見事。
明かりのアートを生み出し、最
近では、インテリア提灯など新し
い技法で驚く作品が生まれ、海外
からも注目されている。



讃岐提灯
提灯というより、明かりの彫刻。
小さく折りたためるものもあり、
土産物にもなる。



讃岐のり染の
ランチョンマット
食卓を飾るランチョンマット。
えとのうさぎが軽やかに跳ねる。

香川の伝統的工芸品については——
(社)香川農産協会 TEL087-433-7412 (栗林公園・商工奨励館内)
香川農産支店 TEL087-432-3339
香川農産品振興課 TEL087-632-3375
さぬき産業工芸館 サン・クラック 火曜定休/10時~19時 TEL087-687-0306



讃岐のり染
獅子舞のゆたんぽ
壁掛けにしても素晴らしい。



手仕事のぬくもり

今も昔も香川県が誇る観光地の
一つ「こんびらさん」。ここには多
くの芸術や技が集積されてきた。
1837年(天保8年)、金毘羅
大権現の「旭社」建立の折
には、全国から腕の
良い宮大工が
移り住み、

門前町の「彫」

その優れた技が「讃岐一刀彫」を
生んだ。民話の世界では、旭社の建
立を頼まれた大工が夢のお
告げでたるまを彫り、その
おかげで立派な社殿が完
成したといひ、このたる
まが一刀彫の始まりとなる。
「讃岐一刀彫」の特徴は、
ノミ跡をそのまま仕上げ
に生かすことにある。刀と呼ばれ
たノミが生み出すデザイン。時に
は重厚に、時には軽妙に、ノミ跡か
ら伝統を超える形が姿を現す。



達磨(たるま)
このユニークな形のたるまは、一刀彫ならではのもの。
民話のエピソードにもなみ、どっしりと大地へ響き渡る重さ。
芸術性を持って事に当たれば「旭社」のような大事を成し遂げ
ることができるという意味が込められている。



旭社(あさひのやしろ)
天保美術の粋を凝めたという
彫刻が見事、国の重要文化財。



商工奨励館 (8時40分~16時45分)
讃岐民芸館 (8時45分~16時30分)
両館とも無休 (ただし12月29日~1月1日休館)
TEL087-633-7411 (栗林公園観光事務所)

栗林公園 「商工奨励館」 「讃岐民芸館」

ミシュラン観光版で三つ星に選ば
れた特別名勝「栗林公園」。ここ
には、伝統工芸品を展示即売する「商
工奨励館」があり、週末には特産品
の実演販売も行っている。近くには、
展示品約990点、取藏品約3,900
点に及ぶ「讃岐民芸館」も無料開
放(入園は有料)されている。天下
の名園を訪れた際には、立ち寄っ
ていただきたい。



特集 2 新春座談会

日本の元気 香川から

知事 昨年9月に知事に就任させていただき、日本一元気な香川県づくりに向けて、全力で取り組んでいます。この元気を出すために、高度な技術を持った特色のある地域産業や次世代のものづくりをバックアップしていきたいと考えています。農林水産業は県の代表的な地場産業であり香川ブランドという形で、香川の良さを直接的に売り込みたいのです。人口減少が諸問題の底辺にある現在、交流人口を増やすことも重要です。観光に力を入れ、トップセールスを展開することで、成果を出していきたいと燃えています。そのためにも、各界の皆さまに忌憚のないご意見をお願いします。

司会 県産業の現場を代表して、工業、

司会 本日は各界の皆さまにお集まりいただき、浜田知事を囲みまして、香川県の魅力、またその魅力を広く県外の皆さまにご紹介すべき取り組みについて語っていただきます。

清水 昨年7月に着任しましたが、香川は活気に満ち、海が美しく、食べ物もおいしく、本当に素晴らしいところだと感じました。その思いを深くしながら、日々を過ごしております。そうした素晴らしい香川県ですが、地方経済の先行きについては予断を許さない現状があります。日本経済の元気がないのなら、香川から元気を出すために、日本銀行も元気づくりのサポートをしたいと考えております。

出席者(敬称略)

- 1 日本銀行高松支店長 清水 季子
- 2 香川県農工商業連合会会長 竹崎 克彦
- 3 高松商工会議所監事 (愛媛工代表取締役社長) 松尾 志郎
- 4 高松ホテル旅館料理協同組合理事長 (高代美山荘花亭海 代表取締役) 三矢 昌洋
- 5 香川県果樹研究同委員会副会長 (三豊市仁尾町かん生産者) 吉田 哲士
- 6 香川県知事 浜田 恵浩
- 7 NHK高松放送局キャスター 島 麻希子(司会)

1	2	3	4
	5	6	
		7	

商業、農業の各分野から3人の方にお越しいただいております。

松尾 ものづくりの現場も過剰な競争の時代。しかし、私が考えるのは、価格ではなく安全と安心がまず第一です。安全性において信頼できる品であれば、価格が安くても不安な代替品をお客さまは選びません。香川県の産品は、安全安心、替えがきかないものづくりでとを考えています。

三矢 芸術祭は、今後の観光に大きな先鞭を付けていただき、島しょ部に魅力的な観光拠点ができました。芸術祭は3年後に再び開催となりますが、香川県では、女木島、男木島、豊島、直島には恒久的な作品があります。そうした拠点と、沿岸部の観光拠点をしっかり

竹崎 香川県のポテンシャルは非常に高いですね。今年は、新規海外航空路線が開設される予定で、国際会議「日ASEAN次官級交通政策会合」や世界最大規模の「第11回アジア太平洋盆裁水石大会」も開催されます。これらは元気づくりのチャンスとなります。香川県の強みを考えてみますと、一つは県の特産品を使った新たな取り組みが挙げられると思います。例えば、ハマチの養殖、小豆島のオリブ、さぬきうどん。これらは単品としてPRするだけではなく、販売やサービスの仕方に工夫を加え、価格競争ではなく、付加価値を付けた展開が考えられます。観光においても、瀬戸内国際芸術祭で、島の景観プラス現代アートという結びつきによって、新たな魅力を県内外に発信することができました。地元の人々も気が付かなかった瀬戸内海の素晴らしい景色を外部の方から評価していただきました。

香川県には、日本一、世界一というものづくりの技もたくさんあります。そういった企業がリーダー役となり、アジアを中心にした新しいマーケットへ進出することも期待できます。

結びつけていく年になると思います。まさに「瀬戸内アート観光圏」を確立する一年だといえます。どう付加価値を付けて香川での滞在を長くしていただけるか、それが大きな課題です。

司会 Kブランドに代表される県産農産物の豊かさも、香川の強みの一つですね。

吉田 ほかではできないものを作るのが香川の農業の元気につながります。香川県では、さぬきうどんのためのオリジナル品種の麦を栽培し、新たに「さぬきの夢2009」が誕生しました。果物では県独自のキウイの王様「さぬきゴールド」などがあります。曾保ミカンでは、11月に収穫するものを、2月まで袋をかけて糖度を増すという「袋かけミカン」を開発、これは日本で3本の指に入る高品質といわれています。赤いミカンで知られる「小原紅早生」は珍重されていますが、シンガポールや台湾などでは旧正月のお祝いものとして大変に人気があります。海外に向けてオンリーワン産品をいち早く作り出し、香川の産物として世界に向けてブランド化するという面白さも、今の農業にはあるのです。



香川県庁にて

三矢 さぬきうどんは日本一のブランドになりましたが、単にこれを食べ歩いていただくだけではなく、よりおいしく食べるには、県産品のだしの「伊吹いりこ」、小豆島や東讃などの「しょうゆ」、観音寺などの「かまぼこ」それに「さぬき青ネギ」などが一番適していますよということも、全国に広くPRしていかなければなりません。また、今年インバウンド元年。外国のお客さまをいかに迎えられるかです。飛行機だけではなく、高松港には2万トンバースがあり、取付港にはさらに大型船の入港が可能です。

吉田 農業の世界は、ご存じの通り高齢化と後継者不足で、現状は65歳以上の人が農業者を支えています。ここへ若い人材が入ってこない、活性化

そこを一泊二泊していただき、おいしいものを食べ、時には農家を回って、高い技術も見えていただく、島も巡っていただくという演出をする連携が重要だと思っています。高いポテンシャルを産業化・経済化していくために産官学が力を合わせて取り組む、それをサポートしていきたいと思っ

はしません。もちろん定年後の方も大歓迎です。そういう人たちが香川に帰り農業の世界に入ってこられると、よい刺激になり産地が活性化します。

知事 観光は「光るものを観る」と書きますが、観光の素材として、まだまだ磨けば光るものが、香川にはたくさん眠っています。ミカンにしても、産業として輸出も考えれば大いに可能性があると思います。そのためにはインフラを整えていかなければならない。長いスパンでものを見、将来に有効な投資を重点的に行う必要があります。製造業では、新事業の創出支援、技術開発支援、ユニークな研究技術で勝負できる企業や産業のお手伝いをしていと考えています。先日、外務省主催の会合で小原紅早生の展示をしましたが、そのおもしろさに外国の方が驚いておられました。香川県の特色ある産品の販路拡大に力を入れていきたい。農林水産業の後継者問題も重要です。新規に取り組む人の敷居を低くして就農できる施策や実践研修も充実させる必要があります。

観光では、芸術祭の成功を次につなげ、広げていくことが重要です。アーツ観光といえば香川県というイメージ

しております。

竹崎 インフラにおいては、ソフトとハードの2種類あります。ソフトについては、人口増加を早急に期待することはできませんので、交流人口に頼らざるを得ません。しかし、単体のイベントだけでは限度があります。島やうどんに加え、ほかの観光資源、美術館や歴史的遺産を連携させることによって、付加価値を生み出す必要があります。四国には、本来「おもてなし」という文化が根付いています。サービスの面においては、コストをかけずにできることが多くあります。ハードのインフラに関しては、整備新幹線への取り組みなど、交流人口や将来に向けての定住人口を増やすための施策を積極的に進めることが必要です。

松尾 今年は、お客さまが安心して買えるものづくりを目指しています。安全・安心にこだわったものづくりの工程を見ていただくことで、納得して使ってもらいたいです。ものづくりの現場にこそ、安全・安心の裏付けがあります。それを、どう見せていくかが、製造業の生き残りの道でもあると考えています。

三矢 全国の皆さんに来ていただく

ジブリを継続して行う必要があります。瀬戸内海クルーズ、金刀比羅宮や栗林公園も含め、広い意味でアートのつながりがあります。まち歩きも生かして、いろいろな周遊コースを県内で広く連携する必要があります。県産品についても、意外と地元の人がある良さに気付いていません。むしろ外から指摘をいただいで、気が付くこともあります。栗林公園のような素晴らしい庭園にも、県外のお客さまが圧倒的に多いです。トップセールスという意味では、私自身がいろいろなところに出掛け、皆さんのご意見に耳を傾けながら、より多くの方に香川の良さを知っていただくことが、ビジネスにおいても基本であると考えています。ポータルセールスやイベントセールスも積極的に進めてまいります。

司会 最後に、皆さまが目指しておられる方向や2011年の抱負などをお聞かせください。

清水 お話を伺い、香川県のポテンシャルが高いことをあらためて気付かされました。それを、どう産業化していくか、どう演出していくか、それが今年の課題です。人が多く訪れるというだけでは、経済効果は限られます。

ためには、香川の伝統である「おもてなしの心」にますます磨きをかける必要があります。これは、すぐにでも我々の努力で実行できます。空港、駅といった施設に、観光客の皆さんに気持ちよく訪れていただき、また帰ってもらえるよう、業界としても声高に呼び掛け、サービスの品質向上に取り組む年にしたいと考えています。

吉田 農業でも、安心・安全なものを作るのが一番の基本。外国産にはない、安心して口にできる顔の見える農業を進めていきたいと考えています。農業だけではなく、工業も商業も一緒に、また、世代を超えての取り組みが、香川県全体の素晴らしさにつながっていきます。一つ一つが輝いていて、全体が明るく美しく輝く。さまざまなところで連携を取りながら、共に向上し、お客さまに喜んでいただきたいと願っています。

知事 これからも、各界のさまざまなご意見を取り入れながら、真に安心で魅力的な香川づくりを進めてまいります。全国の皆さまにも、ぜひ香川県に関心を持っていただき、足を運んでほしいと願っています。

瀬戸内海のミネラルをたっぷり含み、
「海の大豆」とも呼ばれるノリ。
香川県産のノリは、優れた養殖場に恵まれ、
艶やかに黒く、風味豊かにうま味が広がる。

“初摘み”香川県産ノリ

新しい風

香川の県産品で暮らしに新風を

香川県でのノリの養殖は、明治時代に始まる。その長い歴史を礎に、平成21年度は全国6位の生産枚数を誇る。しかし、店頭では「瀬戸内産」などと表記された商品が多く、香川県産ノリと表記されることがほとんどなかった。香川県のノリは「浮流式」で、ノリ網に浮を付けて海面に浮かべる養殖方法。10月にノリの種付けをし、その網を海面に張る。その後は育苗期間、1日に4〜5時間は海から上げて日に当てる。その作業を続けて20日はどたば、いったん引き上げて、なんとマイナス25度以下に保った冷凍庫で保存する。そして、水温が18度を切ると「本張り」といって海面に戻し、15日ほどで刈り取っては伸ばし、刈



り取っては伸ばすを繰り返す。この収穫作業

は早春まで続く。収穫したノリは船で運ばれ、海水を張った活性タンクに入れ鮮度を落とさないようにこみを除く。さぬき市の宇山哲司さんの工場では、活性タンクから出したノリを、まず反転洗機という洗濯機のようなものに入れ、さらに汚れを落とす。次に、こみを取るための専用の機械を通し、短くカットする。次は熟成させて、紙すきの要領でノリをすく。これを乾燥させれば、20センチ四方の乾ノリとなる。さらに、「一枚ずつ自動選別機」を通し、異物の混ざっていないものだけが製



品となる。もちろん、人の目と手によっても、こみの選別作業は念入りに行われる。

香川のノリは、瀬戸内海が味良く育ててくれる。後は人の手で、ひたすら混じりけのないノリに仕上げようと、知恵を出し努力を使ってきた。そうした品質を守り、さらに向上させるために「香川県海苔養殖研究会」も結成された。宇山さんは、その副会



すだれ状の板の上に貼すきの要領で、貼り付けられていくノリ。20センチ四方の板ノリとして出荷する。

長を務める。とにかく品質の良いものをと努力を続けているが、最近の天候不順には悩まされています。海水温の上昇や海中の栄養分の減少のためか、以前は3月まで収穫していたノリが1〜2月で収穫できなく



“初摘み”香川県産ノリ認定マークは、縦3センチ、横1.5センチ。ノリをイメージした黒と深緑の長方形がベース。これを初摘みを表す数字の1の形にデザインしている。

なってきました。けれども、味は変わらず、香川のノリはやっぱりうまい。そのおいしさを広く知っていたいたくために「初摘み」香川県産ノリの認定制度が誕生した。県内の各産地で最初に摘み取られたノリの中から、さらに品質が保証されたものだけが認定マークを使用できる。最初のノリは、やわらかい歯触りと香り高い風味、香川県産ノリの良さを際立たせている。その上質なものを持に「初摘み」香川県産ノリ」と認定、その証しの印だ。幾つもの厳しい検査を合格してきた「初摘み」香川県産ノリ。受験シーズンにもお薦めしたい瀬戸内海の恵みである。

2月6日は「海苔の日」

古来から日本人に愛されてきた海苔。海苔への感謝を込めて、全国海苔貝類漁業協同組合連合会は1966年から2月6日を「海苔の日」と定め、毎年記念行事を開催している。香川県では、小学校の給食に「初摘み」香川県産ノリが登場する。

香川愛媛 せとうち旬彩館

KAGAWA EHIIME
SETOUCHI SHUN SAI KAN

東京・新橋アンテナショップ「香川・愛媛せとうち旬彩館」。
特産品、郷土料理、観光交流コーナーで香川の旬をぜひどうぞ。

新しい楽しみを提案する 「観光交流コーナー」目指して!

昨春秋、2階にある観光交流コーナーを今まで以上に使いやすく、立ち寄りやすい雰囲気へとリニューアルしました。

ショーケースには、香川漆器や高松張子、オリーブ製品などに加え、県産品コンクール入賞作品も並べ、新しい風も取り入れました。情報収集には欠かせないスポットとして、今後も広く活用していただけることを期待しています。



1階 「さぬき市・東かがわ市 冬の旬キャンペーン」開催
 期間:2月末まで

2階 「かおりひめ」で 香川の冬の味をどうぞ
 この冬のお薦めは、香川産の「ワタリガニ」、「ひけた鱒」と「まんばのけんちゃん」。瀬戸内海でカニと言えば「ワタリガニ」、足の先がひれの形をしていて海を泳ぎ回り、身の詰まる鮭から春が旬、うま味がほどよく口に広がる「ひけた鱒」、ふるさと家庭の味「まんばのけんちゃん」。

〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10 新橋マリンビル1,2階 <http://www.setouchi-shunsaikan.com>
 観光交流コーナー TEL03-3574-2028

「香川県フェア」 ～香川のいいものをお届けします～

「香川のいいもの」売り込みます。県内はもちろん、首都圏や関西圏などで「香川県フェア」を開催しています。

旬の県産品を集め、百貨店や大手スーパーでフェアを開催したり、イベントを行ったり、全国に誇れる香川ブランドを浜田知事が先頭に立って大々的にPRしています。

昨年12月上旬にも京都市のジャスコや神奈川県・相模原市のイトーヨーカドーで「香川県フェア」を開催し、オリーブふり、



写真はすべて相模原市・イトーヨーカドーでの「香川県フェア」の様子

- 東京・南国酒家3店で香川県産食材を使ったフェア開催 (1/14～3/15)
- 讃岐牛フェア開催
 宝塚阪急 (2/2～8、3/9～15)
 西宮阪急 (2/9～15、3/9～15)
 場 北花田阪急 (2/9～15)
- 丸ノ内ホテル「県産食材スイーツフェア」開催 (3/14～31)

みばらべにわせ オリーブハマチ、金時ニンジン、小原紅早生みかん、さぬきうどんなどを販売しました。知事も県内からの参加企業を激励したり、ステージイベントでは買い物客に直接売り込みました。

12月5日から11日の間、香川初の取り組みとして、小原紅早生みかんが羽田空港からシンガポール、台湾、香港への国際線機内食に登場しました。

これからも、積極的に香川県産品の知名度向上と新たな販路開拓を目指していきます。

【問い合わせ】
 香川県県産品振興課 TEL087-832-3375

お庭の国宝〈特別名勝〉 栗林公園春のライトアップ

3月25日(金)から4月3日(日)まで今年も開催される「栗林公園春のライトアップ」。

ミシュランの観光版で最高評価の三つ星に選ばれた栗林公園では、春は北庭を中心にソメイヨシノやしだれ桜をライトアップ。浮かび上がる幻想的な夜桜がそれは見事です。期間中は、夜店やイベントなども企画され、お楽しみがいっぱい。

2月上旬にはほんのり甘い梅の香りが漂い、3月下旬になれば満開の桜が迎えてくれます。何度も足を運びたくなる、そんな庭園です。



今年のテーマは「桜の宴」

【問い合わせ】
 香川県栗林公園観光事務所 TEL087-833-7411
 (ホームページ) <http://www.pref.kagawa.lg.jp/ritaurier/>

東山魁夷せとうち美術館

～「芽吹き/春の訪れを詠う」[魁夷 木版画との出会い]～

2月2日(水)から4月10日(日)まで、第4期テーマ作品展を開催します。

1階には、早春の空気の中で小さな緑を探す魁夷が、野山の木々が芽吹き春の訪れを描いた作品を展示しています。

2階では、魁夷の原画を基に制作された木版画を紹介し、今回、奇蹟された貴重な版木も初公開します。浮世絵に培われた、彫り、摺りの技術の集大成は必見です。



春北 木版画

【問い合わせ】
 香川県立東山魁夷せとうち美術館 TEL0877-44-1333
 (ホームページ) <http://www.pref.kagawa.lg.jp/higashiyama/>

瀬戸内海の島々を楽しむ ～瀬戸内国際芸術祭の今～

昨年10月末に盛況のうちに閉幕した「瀬戸内国際芸術祭2010」。国内外から多くの方にお越しいただき、ありがとうございました。

会期中に訪れることができなかった方に朗報です。一部の作品は継続展示が決まり、今からでも見ることができます。

開館日時や作品鑑賞時間、アクセスなど役立つ情報がひと目で分かるウェブサイトもオープン。

(<http://www.setouchi-navi.jp/after/>)

季節が変わり、会期中とは異なった島々の風景、そしてそこに溶け込む作品の姿にはまた違った趣があります。ぜひお越しください。

【問い合わせ】
 瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局 TEL087-832-3123
 (ホームページ) <http://www.setouchi-artfest.jp/>



<http://www.setouchi-navi.jp/after/>